

# tough 構文として用いられる形容詞 impossible と その対義語 possible との関係について

渡邊 丈文

## 1. はじめに

一般に、tough 構文として用いられる形容詞は、tough adjective (= tough 類形容詞) とよばれる。以下にその一例を挙げる。例文中の網掛け部は筆者による。

- (1) a. [1] John is easy for me to please.  
b. [2] It is easy for me to please John.  
c. [3] To please John is easy for me. (荒木・安井 (1992 : 1510))

荒木・安井 (1992 : 1510) によると、tough 構文として用いられる形容詞 (tough adjective、上記実例内では easy がそれに該当する) に関しては、「[1] の形式の構文をとり、しかも [2] の外置 (EXTRAPOSITION) 構文、および [3] の文主語 (sentential subject) 構文に言い換えが可能であるという特性を持っている」と説明がある。ただし、tough 類形容詞として、impossible は用いることが出来るのに対して、possible は一見用いることが可能であるように思われるものの、実際には不可能である。tough adjective として、impossible は可能であるのに possible が不可能であるというのは、どのような要因によるものなのか。possible がもつ語法・文法上の特質について、主に語彙的、統語論的、意味論的な観点からの考察が可能であろうが、本稿

ではとりわけ語彙的、意味論的な観点を主眼とした考察に力点を置いて考える。

## 2. 先行研究

安藤 (2008 : 157) は、「impossible と異なり、possible は tough 構文に使用できないので、It's possible の構文に書き替えなければならない<sup>1</sup>」と説明している。

(2) a. \*Our team is possible to defeat.

b. It's possible to defeat our team. (小西 (1989 : 1420))

小西 (1989 : 1420) は、tough 構文に関して、「to do の目的語を主語にする構文は possible の場合には不可あるいは不自然だが impossible の場合は可能」であるとする一方で「ただし、possible の場合でも if 節中や barely など否定的な意味合いをもつ副詞による修飾をうけると可能」になる、と述べている。

(3) a. \*This dog is possible to wash.

b. This dog is impossible to wash.

c. This mountain is barely possible to climb.

- 
- 1 a. PRO **To please John** is easy. [主語不定詞]  
 b. It is easy PRO **to please John**. [外置不定詞]  
 c. John is easy PRO **to please**. [tough 構文]

安藤 (2005 : 790) では、上記例文を挙げて、Quirk *et al.* (1985 : 1394)、Swan (1995 : 270)、Biber *et al.* (1999)、Huddleston and Pullum (2002 : 1247) なども、上記例文の「三つの文を関係づけて論じている」と述べ、また、「この構文は、目的語が移動したというよりも、頭の中で潜在目的語または避及不定詞としてとらえる、という解釈意味論の立場から説明するほうが有意義である」と指摘している。因みに、Quirk *et al.* (1985 : 1394) では、上記例文 a 及び b から c への書き換えにおける名詞句 (上例では John) の移動に関して、'the noun phrase concerned can sometimes be fronted to become the theme in place of it' (*ibid*: 1394) と説明があり、この移動を 'thematic fronting' と記している。

d. If Tony were possible to live with, I'd live with him.

(小西 (1989 : 1420))

荒木・安井 (1992 : 1510) においては、*tough adjective* は意味上、大きく三タイプに分けることが出来ると記している。i) 難易度 (*difficulty*) を表すもの、ii) 感情状態 (*emotional state*) を表すもの、iii) 価値判断 (*value judgement*) を表すもの、の三タイプ<sup>2</sup>である。ここでは、i) の中で示される形容詞を取り上げてみたい。

i) 難易度 (*difficulty*) を表すもの : *difficult, easy, hard, impossible, simple, tough, etc.*<sup>3</sup>

上記リストの中には、*impossible* は含まれるが、*possible* は含まれていない。では、*tough adjective* として何故 *possible* は用いることが出来ないのであろうか。第3節において、語彙的側面、意味的側面からアプローチを試みたい。もっとも、語彙的側面と意味的側面は連関している面もあるので、必ずしも切り離して考えることは出来ない面もある。

---

2 中村 (2009 : 81-82) は、形容詞の型として「It+is+ 形容詞 +that 節」、「It+is+ 形容詞 +不定詞節」における形容詞について言及している。前者の形容詞を [1] 可能性・蓋然性 (例 : *certain, impossible, possible* など)、[2] 明・不明 (例 : *apparent, clear, evident* など) の二通りに分類し、後者の形容詞を [1] 行為の難易 (例 : *hard, impossible, tough* など) [2] 価値・評価 (例 : *attractive, bitter, boring* など) の二通りに分類している。本稿で扱う *possible, impossible* については、前者・後者の分類の内の各々 [1] に含まれるが、*tough adjective* は、後者の形容詞の分類の内の [1] 行為の難易に該当するものの、その中に、*impossible* は含まれても *possible* は除かれている。

3 Biber *et al.* (1999 : 718) では、Adjectives taking past-predicate *to*-clauses に関する形容詞の分類における具体例として、「Ease or difficulty: *awkward, difficult, easy, hard, (un)pleasant, (im)possible, tough*」を挙げ、その中に *tough adjective* を含めている。

### 3. 分析

#### 3.1. 語彙的側面

##### 3.1.1. 形容詞がもつ一般的特性について

Crystal (1967), in Aarts *et al.* (2004 : 207) は、形容詞の一般的特性として、次のような項目を挙げている。つまり、1) 限定的位置 (attributive position) に置かれる、2) 叙述的位置 (predicative position) に置かれる、3) 強調語 (very) と共に用いられる、4) 比較変化することが出来る、5) 副詞語尾 (-ly) をとる、の五項目である。荒木・安井 (1992 : 1510) の中で取り上げられた tough adjective の内で、i) 難易度 (difficulty) を表すものとして列挙された形容詞について、上記五項目<sup>4</sup>の特性をどの程度満たしているのかを表1にまとめてみる。

表1 : possible または possible 以外の tough adjective に見られる形容詞の特性

	限定的位置	叙述的位置	強調語 (very)	比較変化	副詞語尾
difficult	OK	OK	OK	OK	OK
easy	OK	OK	OK	OK	OK
hard	OK	OK	OK	OK	OK
impossible	OK	OK	OK	OK	OK
simple	OK	OK	OK	OK	OK
tough	OK	OK	OK	OK	OK
possible	OK	OK	OK	OK	OK

表1から分かるように、全ての項目に対して表中の形容詞は全て条件を満たしている。つまり、形容詞としての特性に関しては、possible も impossible も共に満たしていることになる。この点に関しては、両者の違いは明確ではない。紙幅の都合により、全ての形容詞の特性の

4 五項目に関しては、以下の様に整理出来る。1) 形容詞の用法として、限定用法が可能か否か、2) 形容詞の用法として、叙述用法が可能か否か、3) 「very」のような強調語を伴うか否か、4) 比較変化または迂言比較変化が可能か否か、5) 「-ly」を語尾に付して副詞を形成するか否か、の五項目である。

用例を列挙することは出来ないので、特に、筆者にとって判断のつきづらいと思われる項目について以下に *BNC* コーパスからの実例を示す。各例文の後の記号は *BNC* コーパスにおけるファイル名及び文番号を指している。網掛け及び太字は筆者による。

(4)

<「difficult (副詞語尾)」の具体例>

a. but in which something is at stake; and a difference, more **difficultly**, which is not solely dependent on what Raymond Williams somewhere calls  
[ARD (文番号: 68)]

<「impossible (限定的位置、前置修飾)」の具体例>

b. She was in an **impossible** situation [A0F (文番号: 894)]

<「impossible (比較変化)」の具体例>

c. Exactly a week later I suddenly went to Oxford by the **most impossible** train which stopped at every station. [A98 (文番号: 230)]

<「impossible (副詞語尾)」の具体例>

d. It sounds **impossibly** neat , and it is . [ABD (文番号: 300)]

<「tough (副詞語尾)」の具体例>

e. Naylor Massingham grated **toughly** , [JY1 (文番号: 1193)]

<「possible (強調語)」の具体例>

f. The idea is **very possible**, [AN2 (文番号: 1876)]

<「possible (比較変化)」の具体例>

g. This was **more possible** on the east

[A79 (文番号 : 401)]

<「possible (副詞語尾)」の具体例>

h. I could n't **possibly** do that .

[A0U (文番号 : 3)]

### 3.1.2. 形容詞 possible がもつ語法上の特質

形容詞としての一般的特性よりもさらに深く possible の語法について考察してみよう。Sherlock Holmes 九シリーズ<sup>5</sup> を素材に possible の語法について調査した。先行研究においても指摘されている様に、本実例調査の結果からも、tough 構文として用いられている possible の用例は見当たらない。つまり、語法上、外置構文 (it... (for) ...to) として用いられることはあっても、tough 構文としては用いられていない。以下の表 2 は、Sherlock Holmes シリーズに出現した possible を語法上分類精査し、その実例としての出現数を記したものである。

表 2 : Sherlock Holmes 九シリーズに見られる possible の語法とその出現数<sup>6</sup>

	Memoirs	Scarlet	Last	Adventures	Case-book	Hound	Return	Valley	Sign	合計
限定用法 (前置修飾、単独)	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3
限定用法 (前置修飾、含決定詞)	9	1	16	11	10	4	11	7	3	72
叙述用法 (単独)	1	0	4	3	5	2	4	4	1	24

5 九シリーズは以下の題名からなる。表中で用いる場合には、紙幅の都合上、括弧内の略記表現で代用する。*The Adventures of Sherlock Holmes* (Adventures), *The Case-Book of Sherlock Holmes* (Case-Book), *His Last Bow* (Last), *The Hound of the Baskervilles* (Hound), *The Memoirs of Sherlock Holmes* (Memoirs), *The Return of Sherlock Holmes* (Return), *The Valley of Fear* (Valley), *The Sign of the Four* (Sign), *A Study in Scarlet* (Scarlet)

6 限定用法 (前置修飾) に関しては、冠詞やその他の決定詞を伴わずに単独で出現している場合とそうではない場合とに分けて検討している。叙述用法に関しては、単独で用いられている場合と副詞と共に起している場合に分類し、副詞の場合にも、たとえば、hardly の様な否定語の場合には別扱いとした。「if possible」、「最上級 + possible」、「as - as possible」の様な慣用的な表現も語法上の分類に含めている。

叙述用法 (含否定語)	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
叙述用法 (含副詞)	5	0	3	1	3	0	4	0	0	16
外置 (it...for...to)	2	1	5	3	3	1	0	0	0	15
外置 (it...that)	9	1	5	16	7	6	13	4	3	64
if possible	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3
最上級 + possible	1	1	0	0	0	1	1	1	0	5
as - as possible	5	1	1	10	4	3	4	1	1	30
目的格補語	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3

以下に示す例文は、表2に示された各語法の具体例である。例文の後の括弧内の記述は、例文の出典を示す。斜体及び網掛け部は筆者による。

(5)

<「限定用法 (前置修飾、単独)」の具体例>

a. Here is one of the three men whom we had named as possible actors in this drama, and ...  
(Doyle, *The Return of Sherlock Holmes*)

<「限定用法 (前置修飾、含決定詞)」の具体例>

b. There was no possible indication that we intended to go to this hotel.  
(Doyle, *The Hound of the Baskervilles*)

<「叙述用法 (単独)」の具体例>

c. No, no, Watson, I will not admit that it is possible.  
(Doyle, *The Case-Book of Sherlock Holmes*)

<「叙述用法 (含否定語)」の具体例>

d. There is no possible getting out of it, Mr. Windibank.  
(Doyle, *The Adventures of Sherlock Holmes*)

<「叙述用法 (含副詞)」の具体例>

e. It is certainly possible. (Doyle, *Memoirs of Sherlock Holmes*)

<「外置 (it…for…to)」の具体例>

f. It was not possible for me to follow the immediate steps …  
(Doyle, *The Case-Book of Sherlock Holmes*)

<「外置 (it…that)」の具体例>

g. Is it possible that you could come yourself, Mr. Holmes?  
(Doyle, *The Hound of the Baskervilles*)

<「if possible」の具体例>

h. … as you have told it to me, or with more detail if possible.  
(Doyle, *Memoirs of Sherlock Holmes*)

<「最上級 + possible」の具体例>

i. It would make the worst possible impression both on the police and upon myself.  
(Doyle, *The Case-Book of Sherlock Holmes*)

<「as-as possible」の具体例>

j. … , and I'm as keen as possible to see the moor.  
(Doyle, *The Hound of the Baskervilles*)

<「目的格補語」の具体例>

k. … in many exalted quarters if it were thought possible that they might find their way into print.  
(Doyle, *The Case-Book of Sherlock Holmes*)

次に、表2の結果に基づき、possibleの語法とimpossibleの語法とを

比較検討する。以下の表3に考察結果を示す。

表3：possible と impossible との比較

	前置修飾 (単独)	前置修飾 (含決定詞)	叙述用法 (単独)	叙述 (含否定語)	叙述 (含副詞)	外置 (it...for...to)	外置 (it... that)
possible	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK
impossible	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK

表3の結果より、possible と impossible はともに表中の全ての項目を満たしている。「if possible」、「最上級 + possible」、「as - as possible」の様な慣用的な語法として possible は用いられるが、impossible についてはその限りではない。つまり、possible の方が impossible に比べて、慣用的な使用を含めれば、語法上もう少し広い範囲で用いられている。このことは、impossible 以外の tough adjective である difficult, easy, hard, simple, tough にも当てはまる。つまり、上述のような「if possible」「最上級 + possible」「as - as possible」といった慣用的な語法として用いられることはない、ということである。したがって、語法上の使用範囲として「possible > impossible」となっている。ここでの不等号 (>) は、語法上の使用範囲に関して、possible の方が impossible よりも広いことを示している。ただし、このことで possible が tough adjective にならない直接的な理由であるとは言い難い。

### 3.2. 意味的側面

荒木・安井 (1992: 1510) における、tough adjective の具体例について以下に再掲する。

tough adjective : difficult, easy, hard, impossible, simple, tough

上記 tough adjective に関して、各々の語に関して反意関係にある語

を示す。下記の [ ] 括弧内の形容詞は、荒木・安井（1992：1510）において示されている tough adjective の具体例には含まれてはいないが、反意関係にあり、しかも、tough adjective としての特性をもつものとして筆者が取り上げた形容詞である。

difficult, hard ↔ easy  
 impossible ↔ \*possible<sup>7</sup>  
 [complex] ↔ simple  
 tough ↔ [delicate]

上記表現中で否定の接頭辞をつけての反意関係にあるものは、possible に対して impossible があげられる。easy の場合にも uneasy が存在するが、「不安な、不自然な」の意味となり、「簡単な」に対する「難しい」の意ではなくなってしまう。ここで、impossible と possible との反意関係に関して考察しよう。先行研究においても確認した様に、tough adjective の中に、impossible は含まれるが、possible は含まれていない。ただし、(3c) に見られるように、barely の様な否定的意味合いをもつ副詞と共起する場合には possible も tough construction として成立している。以下に、possible と impossible に関して、可能性の度合い (the degree of possibility) に関する段階性 (gradience) を示す数直線上に図示してみたい。

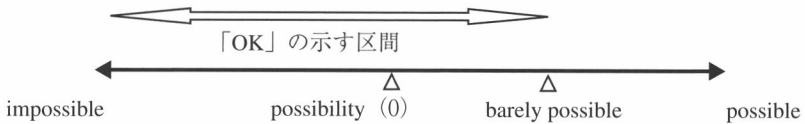


図1：可能性の度合いに関する段階性を示す数直線

7 本文中本頁における記号「\*」は、possible が tough adjective ではないことを示す。

可能性の度合いを示す数直線軸の対極にある、impossible と possible の中間点を possibility (0) とする。barely possible は上記数直線上の possibility (0) の右に位置すると考える (possible 寄りだということ)。このとき tough adjective として成立するのは、impossible  $\leq$  tough adjective  $\leq$  barely possible の示す、上記「OK」の示す区間ということになる。

tough adjective に関し、否定の接頭辞を伴い、反意関係にある impossible の場合には、否定の接頭辞を伴う形での反意語を形成しない difficult や tough などと異なり possibility の程度の観点からの段階性を設けることが出来る。

possible と impossible との関係については、接頭辞を伴うことで反意語として成立する関係にある。その他の語は、意味上の反意関係になっているだけである。つまり、simple に対して \*unsimple のような形や tough に対して \*untough といった否定の接頭辞を伴う形での形態上の反意関係があるわけではなく、simple に対して、たとえば complex の様な意味上の反意語があり、tough に対して、たとえば delicate の様な意味上の反意語が考えられる。しかし、これらは、あくまで意味上の反意関係に過ぎない。

安藤 (2005: 791) では、Swan (1995) の事例を引用した上で、下記の引用事例については、「It is 形容詞 to-infinitive」の「外置不定詞」に書き換えが出来ない点で、tough 構文とは異なっている、という旨の指摘をしている。

(6) a. This tea is too *hot to drink* / \**drink it*.

b. The radio's small *enough to put* / \**put it* in your pocket.

(Swan (1995))

以下は、BNC コーパスにおいて、complex, delicate に関する事例を

示したものである。下記例文中の網掛け部は筆者による。

- (7) Reality is sometimes too **complex to** understand easily.

[B79 (文番号 : 499)]

- (8) The issues may be too **delicate to** handle or too difficult to put your finger on precisely.

[CGE (文番号 : 677)]

上記例文 (6) の場合と同様に、*complex*, *delicate* について「外置不定詞」への書き換えは出来ないのであろうか。以下で、*BNC* コーパスにおいて、*complex*, *delicate* に関して、「外置不定詞」が用いられている事例を挙げる。

- (9) It is suitably **complex to** have taken 600 people five years to develop and succeeds its 10-year-old predecessor, R2 which has been installed in some 1,500 worldwide sites.

[CT6 (文番号 : 128)]

- (10) It is probably too **delicate to** ask the principal the final question

[FRA (文番号 : 1806)]

上記例文 (7) と (9) 及び、例文 (8) と (10) の組み合わせから、*complex*, *delicate* については、安藤 (2005 : 791) が引用する Swan (1995) の事例とは異なり、*tough* 構文としての特性を有していることが分かる。よって、上記の意味的な反意関係にある語の場合には、たとえば、*complex* から *simple* までに、または、*tough* から *delicate* までに見られる、*tough adjective* としての意味上の連続性があると考えられる。

*impossible* に対して、形態上の反意語の *possible* の場合には、*tough*

adjective は不可であるが、以下では、possible 以外で impossible の意味上の反意語となる語について考えてみたい。たとえば、conceivable, imaginable, likely, plausible, reasonable がそれらに該当する。これらの語は、tough adjective になりうるのだろうか。BNC コーパスによると conceivable, plausible, reasonable については、[it be adjective to-infinitive] の外置構文が用いられるものの、tough 構文としては用いられておらず、その他 imaginable や likely についても tough adjective としての使用は確認出来ない。

- (11) It would be barely **conceivable to** start a journey of exploration through Milan other\_than in the Piazza del Duomo. [ANB (文番号 : 327)]
- (12) It is **plausible to** say that our ideas of various colours, of various material things such as gold or sheep, or of processes and activities such\_as dancing and wrestling, derive from experience. [ABM (文番号 : 827)]
- (13) I would expect someone who claimed to believe in ghosts to give some evidence for their existence, and it is **reasonable to** expect the theist to give evidence for God's existence. [AMT (文番号 : 561)]

以上より、impossible の場合には、形態上の反意語の possible の場合にも、上述の意味的な反意関係にある語の場合にも共に、tough adjective としては機能しない。接頭辞を伴うことのない意味上の反意関係にある語で、当該の語が tough adjective である場合には、当該の語の反意語も tough adjective になっている。

また、意味上の連続的段階性という観点からすると、tough adjective を両極とする意味上の連続性が以下の語にはある。「/」は両極間に意

味上の連続性があることを示している。一方、「\*」は連続性が途切れていることを示す。

difficult, hard // easy

complex // simple

tough // delicate

一方、impossible と possible に関しては、

impossible // barely possible (中間項) \*\*\*\*\* possible

となっている。

類義語辞典（たとえば、*The New Collins Thesaurus* (514) または *The New Collins Dictionary and Thesaurus* (770)）によると、possible に関する意味を下記の三通りに区分しているが、各々の意味の反意語の中に impossible が含まれている。逆に、impossible の意味として挙げられている inconceivable の反意語として possible が現れているのみである。よって、各々の反意語としてカバーしている領域に差が生じている。カバーする領域として、impossible の方が広く、possible の方が狭い（下記網掛け部を参照）。

#### A. possible に関して

意味 1：‘conceivable’ の意味の場合

反意語の形容詞：impossible, inconceivable, incredible, unimaginable, unlikely, unthinkable

意味 2：‘likely’ の意味の場合

反意語の形容詞：impossible, improbable

意味3: 'feasible' の意味の場合

反意語の形容詞: impossible, impracticable, unfeasible, unobtainable, unreasonable

## B. impossible に関して

意味: 'inconceivable' の意味の場合

反意語の形容詞: conceivable, imaginable, likely, plausible, possible, reasonable

本稿の意味的側面で検討した tough adjective の特質については、以下の通り整理できる。

1. tough adjective に関して、形態論上、否定の接頭辞を伴わない形のものに関して、意味上の反意語が成立する場合、それも tough adjective である。
2. 否定の接頭辞を伴って反意関係にある possible と impossible の場合には、tough adjective として、possible から impossible までの意味上の連続的段階性は存在しない。
3. impossible に対して、形態論上の反意語である possible 以外の意味上の反意語はいずれも tough adjective ではない。よって、possible のみが tough adjective としての特性をもたないわけではない。
4. possible と impossible の双方の反意語のもつ意味に着目したところ、possible の反意語の三つの項目全てに impossible が含まれ、impossible の反意語の一つの項目に possible が含まれている。意味のカバーする領域は impossible の方が possible に比べて広い。

## 4. まとめ

possible に関し、基本的には tough adjective として用いることが出来

ない語彙的・意味論的な理由として次の様なことが考えられる。まず、possible は、impossible に比べると、語法上の使用範囲が広い点である。次に、possible と impossible の意味的な違いとしては、possible が有する複数の意味（‘conceivable’、‘likely’、‘feasible’の意味）に対する各々の反意語として impossible が含まれるものの、impossible がもつ意味（‘inconceivable’の意味のみ）に対する反意語の一つとしてしか possible は出現していないことが挙げられる。また、impossible の反意語については、それが形態論上のものであれ、意味論上のものであれ、possible だけに限らず tough adjective としては機能しない。よって、possible に比べて、impossible の方が意味上カバーする領域が広く、結果的に、tough adjective になりうるか否かに差が生じている、と考えられる。

#### 参考文献

- 安藤貞雄. 2005. 『現代英文法講義』 東京：開拓社。  
 安藤貞雄. 2008. 『英語の文型』 東京：開拓社。  
 Biber, D. et al. 1999. *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow: Pearson.  
 Crystal, D. 1967. “English Word Classes.” In Aarts, B. et al. (eds.) 2004. *Fuzzy Grammar*. 191-211. Oxford: Oxford University Press.  
 Huddleston, R. and K. Pullum 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.  
 中村捷. 2009. 『実例解説 英文法』 東京：開拓社。  
 Quirk, R. et al. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.  
 Swan, M. 1995 (second edition). *Practical English Usage*. Oxford: Oxford University Press.

#### 辞書

- 荒木一雄・安井稔（編）. 1992. 『現代英文法辞典』 東京：三省堂書店。  
 小西友七（編）. 1989. 『英語基本形容詞・副詞辞典』 東京：研究社出版。  
 William T. M. (ed.) 1984. *The New Collins Thesaurus*. London and Glasgow: Collins.  
 William T. M. (ed.) 1987. *The New Collins Dictionary and Thesaurus*. London and Glasgow: Collins.

tough 構文として用いられる形容詞 impossible と  
その対義語 possible との関係について

155

コーパス

BNC (= *The British National Corpus*) (小学館コーパスネットワーク).